

大阪国際会議に参加した感想と意見

陳 芳

今回、大阪に再び来て食品安全に関する国際会議に参加することができ、非常に光栄に思うとともに大変嬉しく思う。思沁夫先生と平田先生のお招きに再度感謝したい。今回の会議を通して多くの啓発と刺激を得たと同時に、学科や地域を越えた研究の重要性を再認識した。しかし、戸惑いも多くある。

以下に具体的な感想と意見を述べる。

1. 2010 年秋、私は初めて大阪に来て会議に参加して交流（思沁夫先生や平田先生のプロジェクトに参加）した時、初めてではあるが学際性の重要性を理解した。しかしどのように学際的に研究するか、方法は何か、どのように長所を取り入れ短所を補うか、正直に言って、私にははっきりしなかった。今回、具体的な認識はあるものの、完全にはっきりとした境地には至っていない。これは国内外の研究・学習に対する態度や教育方法と関係があり、更には制度や文化とも関係があるかもしれない。どれほど多くの時間が必要か分からないが、要するに、実践的な水準に到達することを望んでいる。故に更なる交流の機会があることを望んでいる。

2. 今回の大会ではリスク概念が討論の重点であった。私は討論の全ての内容を理解していると自信を持って言えない。自身の理解のみから言えば、どのようにリスクを定義し、それに現実的な内実を付与するかは、段階ごとに熟考と整備が必要かもしれない。しかし、疑いなくこれは現代社会の1つの方向である。つまり社会活動と生活自身がますますリスクと関連し、リス

クは既に単なる学問上の概念ではなくなり、それが網羅するものも安全問題だけでなく、理論から実践へ、社会的意義や地域性にまで関わる広範な問題にまで至る。もしも文系と理系がともにリスク研究を必要とするならば、ごく自然に、研究に交差する部分ができ、相互補完の可能性が生じるはずである。しかし、申し訳ないのだが、どのように1つの総合的な方法論を構築するかについて、私はまだ上手く考えられていない。しかし、提案したいのは、(もしあれば)次回もこの問題を検討し続けることはできないだろうかということである。なぜなら、私はそれが1つの突破口になり得ると思うからである。

3. 日本の食品安全管理には我々が学ぶ価値のある多くの経験がある。よって、学科を超えるだけでは不十分であり、地域を越えることでようやく効果的になるのである。この種の認識は私1人だけでなく、恐らく皆がもっているだろう。問題は認識することではなく、どのように実行するかにある。故に更なる提案として、このプロジェクトを進め、成功の経験を得なければならぬと考える。そして分析するのである。

(和田英男 訳)

参加大阪国际会议感想、意见

陈 芳

此次又能够来大阪参加关于食品安全的国际会议很荣幸，也很高兴。再次感谢思沁夫老师和田中老师的邀请。通过此次会议得到了不少启发和刺激，同时，再一次意识到了跨学科，跨地区进行研究的重要性。但是也有不少困惑。

下面谈几点具体的感想和意见。

1. 2010 年秋，第一次来大阪开会，交流（参加思沁夫老师和平田老师的项目）时，虽然是第一次，也体会到了跨学的重要性。但是如何跨学地研究，方法是什么，如何取长补短，说实在的，并不是很清楚。此次虽然又有了一些具体的认识，但还没有到达完全清楚的境地。这和国内国外的研究学风，办学方式有关系，甚至也有可能和制度和文化的文化有关系。还不知需要多长时间，总之，很希望能够达到实践的水平。所以还希望有进一步交流的机会。

2. 此次大会上，风险概念是一个讨论的重点。自己没有自信说理解了讨论的全部内容。只从自己理解的角度谈的话，如何界定风险，又赋予它实际的内涵，可能还需要环节上的推敲和完善。但是，无疑这是现代社会的一个方向。即社会活动和生活本身越来越和风险有关联，风险已经不是单纯的学理概念了，它涵盖的也不仅仅是安全问题，而是从理论到实践，牵连社会意义和地域性也更广的问题。如果文科理科都需要研究它，很自然研究就有交叉的地方，就有互补的可能性。但是，对不起，如何构造一个综合的方法论，我还没有想好。但是想提议，下次(如果有的话)可不可以，继续探讨这个问题。因为我觉得，它有可能能成为一个突破口。

3. 日本的食物安全管理有许多值得我们学习的经验。所以，跨学科还不够，还有跨地区才有效。这种认识不只是我一个，恐怕大家都有。问题不在是不是认识到了，而在于如何做。所以还想建议，应当搞项目，搞成功的经验。然后分析。